自民が島根全区独占

細田氏手堅く5選

浜口、上代氏伸び悩む

二十一世紀最初の政権選択が問われ「マニフェスト（政権公約）選挙」と呼ばれた第四十三回衆院選は九日投開票を行い、島根県は二つの小選挙区とも開票直後の午後八時すぎに当落が判明、自民が二議席を独占した。島根1区は細田博之氏（自民前）が浜口和久氏（民主新）、上代善雄氏（共産新）を振り切り五選。島根2区は竹下亘氏（自民前）が石田良三氏（民主新）、向瀬慎一氏（共産新）、出島千鶴子氏（社民新）に大差をつけて再選を果たした。県内では小選挙区が三から二に削減された最初の選挙となったが、自民は保守王国の地盤に支えられ安定した力を見せつけた。民主は政権選択の風を起こせず、共産、社民は二大政党の間で苦戦を強いられ、議席獲得に至らなかった。投票率は70・66％で、前回より6・52ポイントも下回った。

5期連続当選を決め、花束を掲げて喜ぶ細田博之氏＝9日午後8時18分、松江市灘町の選挙事務所

1区

1区は、細田博之氏が小泉純一郎首相を支える官房副長官として期待感を高めながら、着実に集票。全二十五市町村でトップを占め、陣営が前回を上回る目標として掲げた得票率60％を超える61・02％を達成。無党派層が多く非自民が一定勢力を確保する県都・松江で初めて50％を超えた。

序盤戦、細田陣営は楽観ムードが響き、動きが鈍いまま推移。参院幹事長の青木幹雄県連会長が1区入りした二日以降、態勢を立て直し、票の掘り起こしに本腰を入れた。小選挙区の区割り変更で、新たに1区に編入された平田市と仁多、大原両郡の五町、宍道、玉湯二町で得票が注目されたが、故竹下登元首相らが培った厚い保守の地盤は揺るがず、竹下系県議と首長らが底力を見せた。

前々回、前回とも過半数に及ばず、アキレスけんとされた松江市と安来市、東出雲町では市議らが企業や女性票を上積みし、そろって悲願の過半数を獲得。もう一つの目標十二万票には十一万七千八百九十七票とわずかに届かなかったものの完勝。

浜口和久氏は、マニフェストを柱に、政権選択を前面に出した選挙戦を展開。消費税を財源とした年金改革や高速道路の無料化を掲げ、自民と比較した政策の優位性を訴えた。しかし、選挙戦中盤まで労組の活動が振るわず、支持拡大に苦戦。公示間際に届いたマニフェストの浸透も道半ばに終わり、期待した無党派層の票が伸び悩んだ。前回、民主系候補の分裂選挙で失った県内議席の奪還は果たせなかった。

上代善雄氏は、自民・民主二大政党の対決構図に埋没した格好。比例区での得票に力点を置きつつ、雇用拡大や消費税の増税反対、福祉の重視など生活に根差した政策を訴えたものの、浸透を図れず、期待した都市部でも票を伸ばせなかった。

2区

組織固め竹下氏

石田、出島、向瀬氏届かず

再選を果たし、集まった支持者と万歳をして喜ぶ竹下亘氏＝9日午後8時15分、出雲市姫原2丁目の選挙事務所

2区は、厚い保守地盤に支えられる竹下亘氏が組織もフル稼働させ、区割り変更に伴う県内小選挙区数減で「初挑戦」として臨んだ石見部で他候補の追随を許さず、牙城の出雲部では圧倒。全三十四市町村でトップを奪い、63・77％の高い得票率で再選を果たした。

竹下氏は選挙期間中の七割は石見部入り。当初いまひとつだった認知度は、演説時間を短めにして巡回に重きを置く戦術で浸透を図った。また、選挙区を出雲、石東、石央、石西の四ブロックに分け、県議を中心とした党支部が後援会と連携し、ブロック単位できめ細かな運動を展開。市町村長も街頭に立ち支援した。

出雲部では民主元職と激戦を繰り広げた前回（旧2区）に比べて盛り上がりを欠き、投票率が低下したものの、当選一回の実績を武器に、他候補の知名度不足にも助けられ、得票率はアップさせた。

陣営が目標とした他候補の比例復活を阻止しての圧勝を成し遂げたが、投票率低下で、今選挙区で前回の自民候補二人が獲得した得票総数（約十六万三千七百票）には届かなかった。

石田良三氏は、旧自由党と合併した民主党の公認候補を強調。党のマニフェストを利用しつつ、山陰道整備など独自の主張も織り交ぜ、政権交代を訴えた。しかし、出遅れが最後まで響いたほか、支持基盤の連合系労組の一部が出島千鶴子氏の支援に回るなど、労組票をまとめきれなかった。七十歳を超える年齢も幅広い支持を得るには妨げとなり、地元の大田市や邇摩郡で一定の食い込みを見せたが、及ばなかった。

出島氏は、前回の旧3区で支持基盤となった労組の票を石田氏に奪われたほか、党そのものが元議員の秘書給与問題で「逆風」を受け、最後まで苦戦。結局、前回獲得した三万七千票に遠く及ばず、党勢再建という大きな課題を残した。

向瀬慎一氏は県外出身で、選挙に臨むのが初めて。若さを売りに精力的に街頭に立ったが知名度が低く、訴えが有権者に届かなかった。

選挙区当選者

1区　細田　博之（自民、前（推）公、保）

内閣官房副長官。1967年通産省入り。石油公団ワシントン事務所長、同省物価対策課長など歴任。90年に衆院初当選。通商産業総括政務次官、党総務局長、沖縄・北方対策科学技術担当相などを務めた。東大法学部卒。松江市堂形町。当選5回。59歳。

2区　竹下　亘（自民、前（推）公、保）

党女性局次長。1969年、NHK入り。札幌放送局記者や経済ニュースキャスターを経て85年に退社。故竹下登元首相の秘書を務め、2000年衆院選で初当選。衆院財務金融委員など歴任。慶大経済学部卒。島根県掛合町出身。東京都世田谷区下馬。当選2回。57歳。

鳥取・選挙区開票結果（選管最終）

1区	当	114,283票	石破　茂	46	自前
		31,236票	田中　清一	50	社新
		14,092票	水津　岩男	53	共新
2区	当	52,466票	川上　義博	53	無新
		50,989票	山内　功	49	民前
		45,900票	相沢　英之	84	自前
		9,266票	大谷　輝子	67	共新

鳥取1区　石破氏
鳥取2区　川上氏

鳥取県の小選挙区は2区で無所属新人の川上義博氏が当選し、自民前職の相沢英之氏が落選、新旧交代となった。

川上氏は五万二千四百六十六票を集め、追いすがる民主前職（比例代表中国ブロック）の山内功氏と相沢氏をかわして初当選を果たした。九回連続当選の自民ベテラン相沢氏は、十選を果たせなかった。自民は2区の議席を失ったものの、川上氏は選挙中から自民党に復党する意向を表明している。

1区は防衛庁長官の石破茂氏が十一万四千二百八十三票を獲得し、社民新人の田中清一氏と共産新人の水津岩男氏を大きく引き離して圧勝し、六回目の当選を果たした。

投票率は鳥取1区が64・23％、鳥取2区70・00％で、前回衆院選を9・84ポイント、2・92ポイントも下回った。

島根・選挙区開票結果（選管最終）

1区	当	117,897票	細田　博之	59	自前
		61,071票	浜口　和久	35	民新
		14,237票	上代　善雄	49	共新
2区	当	145,555票	竹下　亘	57	自前
		50,951票	石田　良三	71	民新
		20,965票	出島千鶴子	59	社新
		10,774票	向瀬　慎一	32	共新

比例代表中国ブロック当選者

亀井　久興（自民、前）

党総務。1974年から参院2期。90年衆院に初当選。国土庁長官、党総務副会長、政調会長代理など歴任。学習院大政経学部卒。島根県津和野町出身。益田市有明町。当選4回（比1回）。64歳。

山内　功（民主、前）

党県連副代表。熊本地裁判事を務めた後、83年、米子市で弁護士開業。2000年に比例中国ブロックで初当選。党鳥取2区総支部代表。中央大法学部卒。米子市両三柳。当選2回（比2回）。49歳。

亀井、山内氏が当選

比例中国

比例中国ブロック（定数一一）は十日午前二時半、大勢が判明した。自民が百三十八万八千七百六十八票を獲得して五議席を確保。民主は百二十五万四千八百八十票で四議席、前回の旧自由、民主を合わせた三議席を上回った。公明は六十五万七千三百十一票で目標の二議席を死守した。共産、社民は議席を失い、中国地方でも「二大政党」の傾向が鮮明になった。

山陰両県関係では、自民の比例単独で名簿一位登載の亀井久興氏（六四）＝前職＝が開票後、早々と当選を決めた。

選挙戦で亀井氏は、近年比例で伸び悩む島根県内をはじめ、五県を精力的に回り党勢拡大に専念。島根県内でも出身地の石見部を軸に票を掘り起こしに努めた。

同じく比例単独で立候補した共産の中林佳子氏（五七）＝前職＝は、党勢の衰退は否めず、唯一の議席を守れなかった。

鳥取2区で三つどもえの激戦を演じ、惜しくも敗れた民主の山内功氏（四九）＝前職＝は並立一位で重複立候補、惜敗率97・18％で前回衆院選に続く比例での復活当選を果たした。山内氏は小選挙区で保守系二候補の間げきを突くことができなかったものの、一定の支持を集めて議席につなげた。

このほか、民主から並立一位で重複立候補した島根1区、同2区の浜口和久氏（三五）＝新人＝、石田良三氏（七一）＝同＝は惜敗率が低く、議席に届かず、社民から並立二位で重複立候補した鳥取1区の田中清一氏（五〇）＝新人＝、島根2区の出島千鶴子氏（五九）＝同＝も及ばなかった。

比例単独で、自民の名簿登載二十一位の平林鴻三氏（七三）＝前職＝も届かなかった。

比例代表 中国ブロック当確状況

（定数11、選管最終）

【自民党】（26―5）
00年4人　96年6人
1388768　37・41％

当	1	亀井　久興		83	前元
当	2	河井　克行		59	新元
当	3	加藤　勝信		59	新元
当	4	能勢　和子		59	新元
当	5	佐藤　信二		59	元前
	5	桧山　広	2	59	前
	21	平林　鴻三		59	前
	22	松尾　洋治		59	新
	23	鈴木　信		59	新
	24	長尾　広志		59	新
	25	合田　正		59	新
	26	宇田川　隆久		59	新
○	5	石破　茂	鳥取	1	前
○	5	細田　博之	島根	1	前
○	5	竹下　亘	島根	2	前
○	5	逢沢　一郎	山口	1	前
○	5	熊代　昭彦	山口	2	前
○	5	平沼　赳夫	岡山	3	前
○	5	村田　吉隆	岡山	5	前
○	5	岸　文雄	広島	1	前
○	5	増原　義剛	広島	3	前
○	5	中川　秀直	島根	4	前
○	5	池田　行彦	島根	5	前
○	5	宮沢　洋一	広島	1	前
○	5	高市　早苗	山口	2	前
○	5	河村　建夫	山口	3	前

【民主党】（17―4）
00年2人　96年2人
1254880　33・80％

当	1	山内　功	鳥取	2	前
当	1	津村　啓介	岡山	2	新
当	1	佐藤　公治	広島	6	前
当	1	和田　隆志	広島	7	新
	1	秦　知正	岡山	5	新
	1	柿沼　正明	広島	1	新
	1	佐々木　修一	広島	5	新
	1	柚木　道義	岡山	4	新
	1	菅　源太郎	山口	1	新
	1	空本　誠喜	広島	4	新
	1	浜田　和久	島根	1	新
	1	大泉　博子	島根	1	新
	1	岩本　晋	山口	3	新
	1	中村　徹	山口	3	新
	1	石田　良三	島根	2	新
	1	松本　大輔	広島	2	新
○	○	平岡　秀夫	広島	2	前

【公明党】（4―2）
00年2人　96年立候補なし
657311　17・71％

当	1	斉藤　鉄夫			前
当	2	桝屋　敬悟			前
	3	笹井　茂智			新
	4	森　定幸			新

【共産党】（3―0）
00年1人　96年1人
2435 9　6・31％

	1	中林　佳子			前
	2	久米　慶典			新
	3	藤本　聡志			新

【社民党】（5―0）
00年1人　96年1人
176942　4・77％

	1	金子　哲夫	広島	3	前
	1	田中　清一	鳥取	1	新
	1	小島潤一郎	山口	4	新
	1	出島千鶴子	島根	2	新
	1	松井　秀明	広島	4	新

49
97
87
85
80
67
66
65
63
62
57
51
48
45
38
35
新

【注】ブロック名の下の数字は定数。党派名の右のカッコ内はその立候補者数と当選者数、右には獲得議席数。次行は前回00年、前々回96年の当選者数。その次行に政党ごとの得票数、得票率。立候補者の行で「当」は当選、登載順位、氏名（敬称略）、重複者はその都道府県名、選挙区名、前元新、惜敗率。小選挙区での当選者は、末尾に届け出順に並べ、「当」の代わりに「○」。党派の並べ方は解散時の衆院勢力順。

書画、骨董買い受けます
<なお、鑑定無料で行います>
茶道具、屏風、掛軸、昔の食器、古布、タンス、その他古美術全般。即現金にて。
新、古美術　雲州堂
松江市幸町828
TEL(0852)23-9065 24-5780

秋起こし!!「地力の素」で　手軽に有機米づくり
八束郡玉湯町玉造1420-7　㈱地力の素舎　☎(0852)62-1663　FAX62-1671
URL　http://www.systemclover.co.jp/hiryou/